

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1295100026		
法人名	社会福祉法人 八光聴		
事業所名	多古グループホーム		
所在地	千葉県香取郡多古町南玉造460-81		
自己評価作成日	令和元年3月31日	評価結果市町村受理日	令和2年6月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku./12/index.php
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート楽楽		
所在地	千葉県旭市口1004-7	TEL	0479-63-5036
訪問調査日	令和2年6月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者・職員とも入れ替わりが少なく安定した関係性を維持している。入所者家族との付き合いも長くなりお互いに遠慮なく話しやすい環境を作っている。
職員は認知症をよく理解し愛情をもって接し家族のように協力して生活の場を作り上げるようにしている。まだ残されている能力を大事にし、出来ることをともに喜びあいどうすればその能力を維持できるか考えながら日々を過ごしている。経験の長い職員が多く職員同士で色々な経験を持ち寄り入居者の知恵を借りながら毎日を少しでも楽しく過ごしてもらえるように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員の異動等がほとんどなく、チームとして安定した介護支援が出来ている。家族との関係も良く安心して過ごせる環境が出来ている。同一敷地内の他施設との連携により友人関係の継続や避難訓練時の対応も工夫されている。新型コロナウイルスで外出行事や家族の来所ができなく、施設関係者、スタッフの感染予防の配慮や普段の生活を楽しくできるよう創意工夫をされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の運営理念を玄関に掲げており目にする機会も多くそれぞれが意識して実践に繋げている。職員の異動がほとんどないので利用者としっかりと向き合うことができる。	理念は「地域との触れ合いを大切に、家庭的な雰囲気の中で、その人らしく楽しく、自由な生活を送れるように支援します」と、玄関に掲示され、日々理念に基づき実践している。	職員の異動が少ないのでマンネリ化しない様に職員間で啓発しあう事も必要に思います。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を通して地域の方々と情報交換や交流ができています。地域で行われる催しにも参加するようにし、施設外で会った時にも気軽に声をかけて頂ける関係を作っている。	周辺は畑が多く民家は少なく、町内には参加していない。民生委員、駐在さんは時々訪問があり顔見知りで、地域の行事には参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議・見学や相談があった時に認知症の人の理解や支援の方法を伝えている。令和2年1月からはオレンジサロンを通じて地域に向けての発信にも取り組み始めた		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の情報を共有したり医療的な面でのアドバイスを受けていたりしている。そこで得た情報や意見を日頃の介護に生かし迅速に対応できるように職員間の連携を図っている。	運営推進会議は利用者家族、民生委員、行政職員、駐在など参加率は高く、会議の内容等は記録され、職員間でも共有されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の担当者とは日常的に連絡を取り合い、お互いの信頼関係を築きつつ可能な限りの協力体制を構築している。令和2年1月からはオレンジサロンの運営を始めている。	市町村との連携も取れ、ケアマネ連絡会等にも参加し、協力体制は取れている。令和2年1月からはオレンジサロンの運営を始め地域住民も参加され、入居者との交流も行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯上やむを得ない場合の施錠等を除き拘束は行わない。安全のためにとすることも拘束になっていないか検討しながら取り組んでいる。	玄関は日中は施錠されていなく、内部研修や外部研修に参加し職員間で共有し、一人ひとりへの対応は拘束しない状態にしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	現状において利用者と家族、利用者と職員の関係性は良好で虐待と思われる行為があるとは考えにくい。目に見えない言葉の暴力などを含め、今後も研修などを通じて虐待が見逃されないよう注意を喚起していく。		

[評価機関]

特定非営利活動法人ライフサポート楽楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について改めて学ぶ機会は少ないが後見人制度を利用している入所者がいるので、現場として必要な知識等を中心に学ぶ機会を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は施設内や利用者の様子を実際に見てもらい、本人や家族に理解して頂けるようにしている。不安や疑問があればその都度話し合い理解して頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族等とよりよい関係性を構築するとともに意見、要望の出た時は随時検討し可能な限り反映させるようにしている。	入所時と途中の面談では家族の意識も変化するので、関係性を大事にしながら要望を取り入れ、可能な限り意見を反映できるようにケアプランでも検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な職員会議や毎日のミーティングの中で運営上の意見や提案を汲み上げ柔軟に対応、反映させている。管理者と職員の個別面談等での聞き取りも行っている。	職員会議やミーティングも取り組まれ、意見の反映もされている。管理者との面談も行われ支援もされている。	会議欠席者に対する確認も記録に残されることをお願いしたい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の希望や個々の事情などを考慮し積極的に仕事に取り組める働きやすい環境づくりをしている。仕事に対する思いを聞き取りやりがいや向上心を持って個々の力を発揮できる職場づくりを目指している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内研修を定期的に行い研修の機会を作っている。外部の研修を受けたいと希望する職員に対して勤務時間の調整等の便宜をはかっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	多古町の認知症デイや小規模多機能サービスを行っている事業所との交流や相談等を行っている。お互いの事業所の訪問等を行うことの中で学ぶことも多い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所初期に本人・家族と十分に話し合い、希望や思いを汲み上げている。その後も様子を見ながら職員間で話し合い本人や家族との信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族から入所までのお話をゆっくりと聞き取るよう心掛けている。家族の気持ちに寄り添いながら入所後の希望・相談等を受け止め、家族との信頼関係を築くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは本人に新しい環境に慣れて頂くことから始めている。本人の様子をよく観察しながら、本人や家族が必要としている支援を見極めて改善に向けた援助の提案をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残されている能力を活かしながら活躍の場面を作るようにし、出来たことは一緒に喜び一緒に生活しているという実感を持てるような関係性を目指している。人生の大先輩から教わることが多いと実感している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の日頃の様子や思いを家族の面会時等に伝えたり、毎月担当から近況報告として手紙で伝えている。面会しやすい環境作りに努め、離れて暮らしていても関係性や絆を継続できるよう心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の催し物に参加したり入所前の主治医に通ったりすることで馴染みの人や場所との関係を保つようになっている。必要に応じて家族の協力を仰ぐこともある。	同一敷地内にケアハウスや特養、デイサービスがあり、友人が来ている日には会いに行ったりしている。外出や外食、行事等に参加したり昔の友人等に出会うこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者間の関係性を把握して気の合う方と席を近くするなど工夫している。利用者間でトラブルが発生しないように見守りながら調整を行っている。誰もが孤立せず楽しい時間を過ごせるよう工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設への移動したり入院が長引いたりした時も見舞いや面会に出かけたり近況を気にかけている。家族との関係性も可能な限り継続し、必要な場面では相談や支援を行えるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何気ない会話や日頃の様子から本人の希望や意向を把握できるよう努めている。家族と話し合い情報を頂くこともある。職員間で情報を共有しながら理解を深めるようにしている。	担当職員が利用者の要望を聞き外出場所を決めている。家族との連携も出来ており定期的に外泊も行えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査表・本人や家族からの聞き取り・以前使っていた事業所や担当ケアマネへの問合せも行い参考にする。本人や家族との何気ない会話の中からヒントをもらうこともしばしばある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の記録、ミーティングや職員会議、申し送りノートを通じて職員間の情報交換を密に行い、個々の生活や心理面等の変化を把握し職員間で共有するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成の前に本人や家族に聞き取りを行う。職員間でアイデアを出し合い本人がよりよく暮らせるように介護計画を作成している。	ケアマネさんと十分に話し合い、送りの時の意見なども反映して追加している。昔の味を工夫した食事会も取り入れている。	食事会もいろいろな価値観もあるので、思い込みにならない様に良く話を聞いたり、動作から判断している。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や通院記録、検温版等を利用して身体状況、生活状況を職員間で共有して理解を深め、ミーティングなどの場で話し合いケアプランの見直し・評価につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院の送迎、外出の支援はホームで柔軟に対応している。本人の希望に応じて可能な限りの対応を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域生活を継続するため民生委員、区長、地域団体、地域包括支援センター、警察、消防署とのつながりを持つように努める。法人内他施設の行事などに積極的に参加している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ医に継続してかかっている方が多い。家族と協力しながら適切な医療を受けられるよう支援している。定期受診は施設で通院しているが緊急時には家族の同行をお願いするようにしている。	職員対応で希望するかかりつけ医への受診ができ、家族へ毎回報告を行っている。緊急時には家族の同行もお願いしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問で健康チェックをお願いしている。訪問日には日々の様子や気づきを伝え適切な指示・助言を受ける。急な体調変化時には電話で相談し緊急訪問を受けることもある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院による本人・家族の不安を和らげるために面会を行う。カンファレンスに参加するなど医療者との面談を行い早期退院ができるよう働きかけている。グループホームの特性を理解して頂けるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	受診時・入院時等に家族や主治医と話し合いを行い、本人・家族の希望に事業所として出来ることを説明している。主治医・訪問看護ステーション・家族の協力を得ながら支援に取り組んでいる。	入所時に重度化や終末期については同意書をもっている。対応が必要な時は主治医、訪問看護ステーション、家族の協力を得ながら取り組み、見取りは行っていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時や事故発生に備えて応急手当や初期対応の訓練を行っている。また実際の場面での失敗や反省点を共有し今後に生かせるよう話し合っている。感染症についても研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回実施している。昨年の長期にわたる停電などの教訓を活かし想定外の事態に陥った時にどうするか様々な場面を想定した準備や訓練の必要性を痛感している。	法人が備蓄を管理している。年2回訓練を行い夜間想定もしている。	

[評価機関]

特定非営利活動法人ライフサポート楽楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、その方にあった声掛け・対応を心掛けている。嫌がる、拒否するなどの行動があった時には職員が情報を共有し別の方法を考えるなど対応している。	マスクで声がこもるので、円卓をつくり目の動きや表情に気配りしながら話しかけている。内部研修や外部研修に参加し、ミーティングで話し合い、職員間で共有を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人が思っていることを遠慮なく言いやすい環境を作るようにしている。本人に「どうしたいか」「どちらがいいか」などと確認しながら支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	孤立しないよう声掛けし食事は一緒に摂るようにしているが、基本的に本人が最優先と考え本人の気持ちや体調を尊重して支援している。1日の過ごし方などは入居者本人が決めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の際には特に身だしなみや服装に配慮しているが、普段も着替えの際など相談しながら決める。持参した持ち物から好みを想像しその方らしいおしゃれをして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事の中で昔作っていた馴染みのある食べ物を皆で一緒に作ったり、日常的には季節の食材を使った調理などを心掛けている。片づけはできる範囲ですて頂く。	一人ひとりの食器を使い、時折松花堂弁当箱へ入れたり、食事を楽しむ工夫をしている。下ごしらえや味見をしてもらったり一緒に楽しめるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量の少ない方に個別に好きな飲み物を用意したり、食事量の減っている方に好みのおかずを提供するなど工夫している。職員も一緒に食事し必要に応じて声掛けや介助を行う。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は歯磨きをして頂く。磨き残しのある方には仕上げ磨き、状態に応じてマウスウォッシュなどを利用し口腔内の清潔を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用してその方の排泄サイクルを掴み、その時々体調や状況に合わせてトイレでの排泄のあり方やパッド類の見直し、下剤の調節をしている。	排泄チェックを行い、さり気無くトイレに誘導し、失禁も少なくなり、パッドやリハパンの使用も減っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動や飲水を勧めたり、個々に乳製品や果物などを摂取してもらうなど工夫している。カミの声掛けをしたりしているが、なかなかうまくいかず下剤を利用している方が多い。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	声掛けしても入りたくないという時には無理強いしない。入浴日や時間を変えてみたり、誘い方を工夫したり個々に沿った支援に努めている。	週2回入浴だが本人の希望があれば対応している。季節の入浴(ゆず湯、菖蒲湯等)も行い入浴を楽しめる工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就床や起床の時間は個々にあわせている。生活習慣や体調を見ながら休息の時間を作っている。夜間は安心して眠れるように明るさ等にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容や数量は一覧表を作り薬剤情報は個人別にすぐに確認できるようにしている。薬が変わった時は連絡ノートで申し送り体調の変化を記録に残すように習慣付けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとりひとりの力を活かし楽しみにつながるように出来る仕事はして頂いている。季節ごとの行事や昔からの習わしなども大事にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	普段の場所に出かけることも気分転換の一つと考え、個別に外出や楽しみ事ができるようにしている。散歩・ドライブ・外気浴など支援している。家族と協力し定期的に自宅に帰る方もいる。	定期的に出外している。天候や体調で散歩やドライブに出かけたり、外食なども行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則としてお金の管理は職員が行っているが買い物の際には本人に支払いをしてもらうなどしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人や家族の希望があれば電話をすることが出来る。手紙を書いて投函することも自由。年末にはみんなで年賀状を書いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気持ちよく過ごせるよう換気や湿度の管理には気を配っている。日当たりの良い所にソファを置きゆっくりと日光浴や一人の時間を楽んでもらっている。その時期の花を活けて季節を感じてもらえるようにしている。	季節を感じられる様入り口や洗面等に生花が活けてあり、室内も整理整頓がされ、車イスでの移動にも安全に配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席、ソファ等皆で過ごしたり独りになったり各々が工夫している。職員は常に個々の表情を見ながら心地よく過ごせるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から馴染みの物を持って来ていただいたり、カレンダーや写真を飾るなど工夫し気持ちよく過ごせるよう演出している。	居室にはなじみの物が置かれ、衣類の入れ替え等は担当職員が家族と一緒にしている。室内のポータブルトイレは目隠しにタオル等が掛けられ配慮がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出入口、トイレ、自分の居室等は表示をして分かりやすくしている。手すりを利用して立ち上がりやすく歩きやすいように工夫している。		